

小林潔司先生と私

— ○○から始まった不思議な縁 —

平成22年7月24日(土)

都市社会工学専攻
大津 宏康

小林先生とのお付き合いの歴史

フェーズ1

平成11年(1999)8月～平成13年(2001)7月

○○から建設マネジメント勉強会設立・サマースクール
「建設マネジメントを考える」開催まで

フェーズ2

平成13年(2001)8月～平成18年(2006)3月

建設マネジメント勉強会を通しての実績作りから京都大
学経営管理大学院(MBA)設立まで

フェーズ3

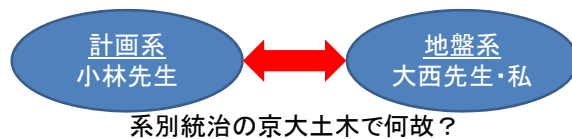
平成18年(2006)4月～現在(2010)

土木の新たな発展形としての国際化プロジェクト(GCOE・
G30)への参画および実践

フェーズ1:平成11年(1999)8月～平成13年(2001)7月

平成11年(1999)8月

D21(土木の21世紀を考える会, 委員長:大西有三教授)



平成11年(1999)10月

第1回建設マネジメント勉強会開催【話題提供者:大本俊彦氏】

平成13年(2001)7月

第1回サマースクール「建設マネジメントを考える」開催

フェーズ2:平成13年(2001)8月～平成18年(2006)3月

1. 建設マネジメントに関する実績作り

1) サマースクール「建設マネジメントを考える」

平成13年(2001)以降毎年開催(本年2010年で10回目)



2) Summer School in Vietnam

「Road Infrastructure Asset Management」

平成17年(2005)以降毎年開催

第1回:AITV共催, 第2回以降:UTC共催

3) JBIC research project (August-October, 2004)

Research on Construction Project of New National Highway No.3, NH-3, from a Viewpoint of Asset management



フェーズ2:平成13年(2001)8月～平成18年(2006)3月

2.京都大学経営管理大学院(MBA)設立まで

平成18年(2006)4月:京都大学経営管理大学院(MBA)開校

基礎教育・研究者養成を主目的とする京都大学における専門
職育成を目的とした独立部局設立という画期的な出来事

【決して平坦ではなかった設立までの経緯】

- ◆誰が敵で、誰が味方か?(教授懇談会)
- ◆ローム記念館へのSOS電話(ちょっと来てくれる?)
- ◆大本先生昆明・香港事件(仲裁士もビックリ?)

荒木先生(当時工学研究科長)と大西先生(当時工学研究科評議員)の
ご尽力の賜物

フェーズ3:平成18年(2006)4月～現在(2010)

土木の新たな発展形としての国際化プロジェクトの実践

平成20年7月～現在(5年間プロジェクト)
GCOE「アジア・メガシティにおける人間安全保障工学拠点」

平成21年7月～現在(5年間プロジェクト)
G30「KU-PROFILE」(留学生30万人計画)

今の京大土木で 大丈夫かいな?

大学の国際化とは
国際高等教育機関におけるヒアリング結果

大学の国際化に不可欠な要素
学生の国際化・教員の国際化だけ?

●事務部門の国際化
英文でのドキュメント管理/プロポーザル作成

●教員の海外プロジェクトへの参画および海外
からの競争的資金の獲得



平成20年度グローバルCOE
「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」
都市基盤マネジメント研究領域成果報告会での出来事



開催日:2009年3月4日

場 所:京都大学桂キャンパス C-1-3 191





短期集中降雨を対象とした斜面降雨浸透特性検討

気候変動(ゲリラ降雨: **短時間集中**・**高降雨強度**)条件下での斜面防災

【目的】

短時間集中・高降雨強度条件下での、表面流の発生状況および地中への浸透特性の解明

【課題】

原位置計測サイト選定の困難さ

(どこでゲリラ降雨が発生するかは現状では不確実)

【着眼点】

降雨特性(短時間集中・高降雨強度)に関するゲリラ降雨と熱帯性降雨(スコール)との類似性に着目



G30留学生リクルートでクリアすべき3段階の課題

第一ハードル: 何故日本?

- 1) 大学では英語, しかし学外ではすべて日本語
→ 習得が困難な日本語および日本の社会システム/風習
- 2) 高い生活費
→ 入学金/授業料免除・減額, および**奨学金の手当**等の対応が必要
- 3) **日本での就職あるいは日系企業への就職の可能性**

第二ハードル: 何故京都?

高校レベルでは低い京都大学の知名度
→ 宣伝の不足/トップ外交の必要性

第三ハードル: 何故土木?

東南アジア地区での土木への進学者の減少

第三ハードル: 何故土木?

(課題) 東南アジア地区での土木への進学者の減少
→ 既存の土木ではないことをアピールする必要性

現状での、東南アジアの若者の関心は、金融・ITであり、土木の人気は極めて低い。

【途上国における建設市場の動向】

- 既に国際化を余儀なくされた状況
- ◆ 国際入札(国際的な契約管理を含む)
- ◆ 多国籍企業とローカルコントラクターのジョイントベンチャーJV
- ◆ PPP (Public Private Partnership)/Concession契約の増加

多くは欧米のPh.D取得者
Manager (マネージャー)
Engineer (エンジニア)
Foremen (現場監督)
Labors (労務者)

日本では明確な差なし

【日本における土木教育の特徴】

- ◆ 基礎学問(構造・水理・地盤・計画)教育
- ◆ 研究者養成を主体とし, かつ上級公務員(アドミニストレーター)の養成
- ◆ 専門については, 社会人となった後のOJTでフォロー

ミスマッチング

【途上国留学生のニーズ】

- ◆ 卒業後エンジニアではなく、マネージャーを志向
- ◆ 要素技術のみの教育プログラムでは不満足
- ◆ 更なる新たな調達方式への取組に期待

変動する建設市場環境を踏まえ、京都大学はどのような人材教育プログラムを立案できるか?

小林先生
今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしく
お願い致します。

